Strawberry

いちご

成り疲れ防止

糖度アップ・玉の肥大

着色・色つやの向上

硬度・日持ち性向上に！！

ロイヤルインダストリーズ株式会社

表1 いちごの高品質、高収量を実現するための、弊社製品の組合せ処理方法

使用時期	使用目的	使用方法と使用回数
育苗初期	炭ソ病の予防	親株のポットにスプーン一杯分のバイオアクセルを施す。子株のポットにも同様の処理を行う。
親株から新葉が抜け出た頃(3月中旬)	ランナーの発生量を多くするため	ケルパック66 3000倍液を葉面散布する。
ランナーが20cm位伸びた頃	さらにランナーの発生量と生育を良くするため	
採苗1週前	植え傷み防止	
ポットに活着してから	株の充実	ケルパック66 3000倍液をタップリ潅水する。
梅雨明け前の7月10日頃		
8月中旬		ケルパック66 3000倍＋DiNAプロリン1号 2000倍＋グルタン 1000倍液を軽く株元潅水する。
8月下旬	花芽分化の促進	ケルパック66 1000倍＋DiNAプロリン1号 2000倍＋グルタン 1000倍＋色一番E 3000倍 (又はカルビタPK 1000倍) 混合液を30坪(苗約3000ポット)当り10ℓ散布する。
9月上中旬		
定植時	植え傷み防止・活着促進 炭ソ病対策	①ケルパック66 10000倍＋DiNAプロリン1号 2000倍＋グルタン 1000倍液をポットに潅水しておいてから定植する。 又は ②土の付いていない苗は株丸ごと ケルパック66 3000倍＋DiNAプロリン1号 2000倍＋グルタン 1000倍液に瞬間浸漬してから定植する。 ③植穴にバイオアクセルを一掴み施す。もしくは予め土作りの際に、バイオアクセル20～30kg/10aを土壌に混和しておく。
定植後マルチを張る前	果実肥大促進、糖度アップ	10a当たり施用量 ケルパック66 250～300ml＋DiNAプロリン1号 200ml＋カルビタ 1kg (又はカルビタPK 1kg) を1000～5000倍にうすめ潅水チューブで流す。 (収穫時期が1ヶ月位早まることがある。)
1番果が親指大のとき	果実肥大、糖度・硬度アップ、着色強化	
2番果が親指大のとき	成り疲れ防止、果実肥大、糖度・硬度アップ、着色強化	10a当たり施用量 ケルパック66 250～300ml ＋DiNAプロリン1号 200ml＋グルタン 5L＋カルビタ 1kg (又はカルビタPK 1kg)＋ アミノマリーン 2ℓ (又は元気一番 1kg)＋カメガード 3～5ℓを適宜うすめ潅水チューブで流す。
1番果の収穫後で成り疲れが出る頃(12月下旬～1月中旬)		
2番果収穫以降		上記と同様の処理を1ヶ月おきに潅水チューブで流す。
＊定植後、上記土壌処理に代えて葉面散布を行なう場合		定植後2～3週過ぎたら ケルパック66 2000倍＋DiNAプロリン1号 2000倍＋グルタン 1000倍＋カルビタPK 1000倍＋ アミノマリーン 1000倍 (又は元気一番 1000倍)＋ ロイヤルシリカMG 2000倍混合液を散布する。 これ以降も引き続き同混合液を2週おきに散布する。
＊養液栽培及び高設土耕栽培のイチゴに使用する場合		養液に ケルパック66 150000倍＋カルビタPK 20000倍＋ アミノマリーン 5000倍＋カメガード 3000倍＋DiNAプロリン1号 7000倍＋グルタン 3000倍を加用し1週おきに潅水チューブで流す。

「カメガード」は嫌気性微生物資材です。本材は土壌処理すると果色はルビー色にの輝きツヤが出ます。

ロイヤルシリカMG はゼオライトに苦土、鉄、りん酸等を加えた多孔質乾燥促進資材です。本材は乾燥力によって花カスはカサカサに乾き、落ち易くなるため灰色カビ病等の被害が軽減されます。 2000倍液を散布することをお勧めします。
汚れが心配な方にはグルタン500～1000倍液の散布をお勧めします。

注：下記はケルパック66、グルタン、*DiNA*プロリンを紅ほっぺ、とちおとめ、さがほのか、四季なりイチゴに使用した農家さんの報告です。
（ 使用した時期は表*1*（処理方法）とは必ずしも一致しておりませんが、高い効果が得られています。いつから使用しても効果が出ますので、まず使用することをお勧めします。）

【いちご（紅ほっぺ）に対するDiNAプロリンの使用例】

対象作物：紅ほっぺ
実施場所：長野県上高井郡小布施町　O氏
処　　理：8月のお盆のころから、DiNAプロリン 2000倍液を15日おきに葉面散布
調 査 日：11月28日（収穫開始日）

O氏のコメント：例年であれば、12月の2週目頃から収穫が始まるが、今年はそれよりも２週間ほど早まった。
また、果実肥大がかつてないほど進み、大変驚いている。味も申し分ない。このまま７月まで収穫を続けるので、ケルパックや鰹エキス、化成肥料を施用し、収量を確保していきたい。

【いちご（とちおとめ）に対する使用例】

対象作物：とちおとめ
実施場所：青森県上北郡おいらせ町　K氏
定　　植：9月5日
処　　理：

使用製品	散布倍率	散布時期・回数		
		12月	1～5月	6月
ケルパック66	1000倍液とする。	2回	2回/月	1回
グルタン	100坪のハウスに1回当たり1ℓを溶かして流し込む。	2回	2回/月	1回
DiNAプロリン1号		―	1回/月	1回

生育調査：

- 第1回目の収穫のいちごの大きさが収量・収入に影響する。
  大玉化したいちご（写真）の収穫が得られた。→
- 今年は、従来の化成肥料による茎葉散布は行わなかったが、収量も例年にないパック数が続いた。
- 果実品質（大玉化、果形、糖度、食味）が改善された。
- 例年、生育が悪いハウスでもしっかりした株の育成ができた。
- 6月20日の収穫終了時点での株もまだしっかりしていた。根量の多さも確認できた。
- RIC社製品は有機質中心の資材が多く、いちごの株の生育がマイルドとなる。
  使用時期をそれほど気にしなくても安心して散布できる。化成肥料は、株の生育が急激で、施肥時期に気を遣う。

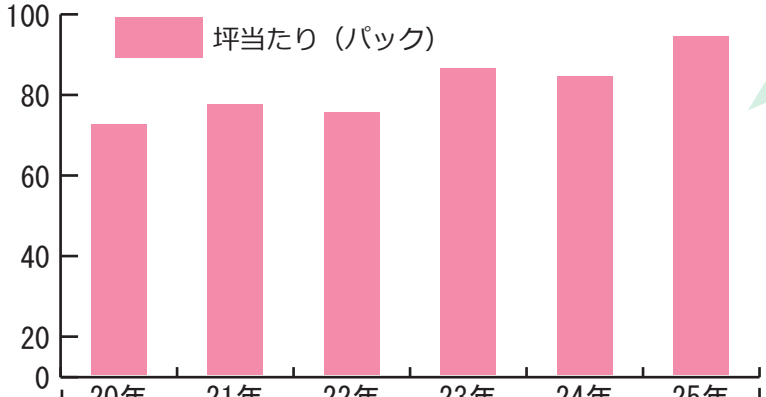
【いちご（さがほのか）に対する使用例】

対象作物：さがほのか
実施場所：佐賀県杵島郡白石町 A氏
使用資材と使用時期・処理方法：下記表の通り。
(前年の１０月中旬ころからケルパックやアミノマリーンを灌水ごとに混入して処理している。)
使用倍率：各材とも1000倍 に希釈して灌水または散布した。

表1 (灌: 灌水、散: 散布)

処理日	DiNAプロリン1号	グルタン	元気一番	カメガード	ケルパック66	アミノマリーン
1/9	灌					
1/13		散				
1/17			灌	灌		
1/27					灌	
1/29						
2/2	散					
2/15		灌	灌		灌	
2/28		灌				
3/3	散					
3/17	灌					
3/28		散				
3/30	灌					
4/1	散					
4/4		灌				
4/9		灌				灌
4/15	灌					
4/19	散					
4/25		灌				
5/6	散					
5/30		散				

表２　Aさんの坪当たりの出荷実績



	20年	21年	22年	23年	24年	25年
坪当たり（パック）	72	77	75	86	84	94
10a当たり（トン）	6.5	7.0	6.8	7.0	6.8	8.5

Aさんのイチゴ収量は栽培当初から毎年坪当たり７０パック以上を上げておられ、安定している。これも偏にケルパック等を使用していらっしゃるからであるが、２５年から新たにDiNAプロリン及びグルタンを導入したことから坪当たり収量が対前年比１０パック増え９４パックを達成している。

Aさんのイチゴ畑
３月２０日撮影

【いちご（四季なりいちご）に対するDiNAプロリンとグルタンの使用例】

対象作物：四季なりいちご
実施場所：秋田県大仙市　K氏
処理方法：流し込み
使 用 量：DiNAプロリン：100坪のハウスに1回あたり1ℓを溶かして流し込む。グルタン：100坪のハウスに1回あたり1ℓを溶かして流し込む。ケルパック66：1000倍液とする。

使用頻度：

移植月	翌月以降
2回/月	2回/月

結　　果：昨年との比較
- ●大玉化した。
- ●したがってパック数が伸びた。
- ●ハチの動きが良い。
- ●花が大きい。
- ●ダニ防除後のイチゴの生育が回復した。
- ●化学合成肥料の追肥は中止した。

K氏コメント：
昨年のいちごとは全く違った株の姿となった。
化成肥料だと草丈だけが上に伸びて、花も小さい。
今年の株は、草丈もそれほど伸びないが、葉っぱが広く、新しい茎の勢いが良い。
プライムは化成肥料で生育を促進すると、根が弱るようだ。

下記資材の相乗効果で増収、品質向上、収益アップ！！

南アフリカ産巨大海藻エキス
ケルパック66®
1, 5, 10, 25ℓ入り

核酸 ・海藻エキス
・アミノ酸（プロリン・メチオニン
DiNAプロリン1号
1ℓ、5ℓ入り

アミノマリーン®
有機アミノ酸・核酸液肥
(鰹100%エキス)
1, 5, 10, 18ℓ入り

乾燥促進剤
ロイヤルシリカMG
750g入り

微量要素入り配合肥料
元気一番 1kg入り
窒素 27%、りん酸 12%
加里 8%、苦土 3%、

糖蜜を納豆菌が発酵させた
微生物資材
グルタン
1ℓ、10ℓ、18ℓ入り

微量要素入り　有機カルシウム肥料
カルビタシリーズ
（カルビタPK、カルビタ）
1kg入り

アミノ酸系液肥
カメガード
10, 20ℓ入り